

さいたま市文化財時報

かや
榎りぼーと

第90号

田島ヶ原サクラソウ自生地が 「未来に残したい草原の里100選」 に選定されました

全国草原の里市町村連絡協議会が主催する「未来に残したい草原の里100選」の選定事業において、桜区の「田島ヶ原サクラソウ自生地」が選ばれました。

本事業は全国に残る草原とその里に光を当て、人と自然の関わりの中で培われてきた知識や技術、人々の想いを共有し、次世代へ受け継ぐことを目的としたものです。

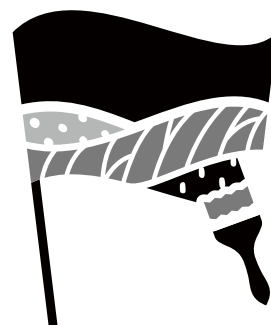
本号では、この「未来に残したい草原の里100選」について取り上げます。

「未来に残したい草原の里100選」とは

草原をもつ自治体間の連携と草原保全を進めることを目的として2016年に発足した「全国草原の里市町村連絡協議会」により、「未来に残したい草原の里100選」の選定事業が開始されました。2022年3月に第1回目の選定が行われ、全国から34箇所 of 草原の里が選定されました。

2022年秋より、第2回目の募集が始まり、2023年3月に複数の有識者からなる選考委員会において、「田島ヶ原サクラソウ自生地」を含む全国14箇所 of 地域が、新たに選定されました。

2回の選定を経て、「草原の里」の総数は48箇所となっています。



未来に残したい
草原の里
100選

■ 草原について

「草原」とは…草が一面に生えている広い平地。くさはら。
〔デジタル大辞泉より〕

かつて、日本の暮らしは草原によって支えられてきました。縄文時代から建築物に茅が使われはじめ、農耕が始まってからは、敷草や堆きゅう肥料の材料として、物資の運搬などの作業を担う牛や馬の飼料として草が必要でした。

また、食物、衣類や薬草を得る場所として、あらゆる面で草原の恵みを受けながら、暮らしが営まれてきました。限られた土地の中で資源を最大限に活用するため、草原を利用するルールや火入れの技術が日本各地で生み出され、引き継がれてきました。草原とともにある暮らしは、さらに秋の七草を愛で、盆に草花を供えるなど、豊かな心情や文化も醸成してきました。

しかしながら、高度経済成長期以降、草原は、国土の1%にまで減少している状況にあります。



▲田島ヶ原サクラソウ自生地 夏の風景

■ 田島ヶ原サクラソウ自生地

田島ヶ原サクラソウ自生地は国の特別天然記念物に指定されており、春に咲くサクラソウで知られています。荒川左岸の河川敷に位置し、サクラソウ以外にも希少な植物が多く分布しており、首都圏の中において豊かな生態系が残されている貴重な場所です。

また、100年以上にわたり、地域住民の方々を中心に、人々と深く関わりながら環境が維持されてきました。

次の100年に向けてサクラソウの安定した持続的な生育を維持するだけでなく、自生地を「共創資産」として捉え次世代に引き継いでいくことが求められています。



▲春に花が咲くサクラソウ

選 定 を 受 け て

天然記念物としてだけでなく、草原の共創資産としての価値が客観的に評価された田島ヶ原サクラソウ自生地は、さいたま市だけではなく、全国的にも貴重な場所であることが改めてわかります。

今回の選定にあたり、未来に残したい草原の里100選運営委員会編集の「未来に残したい日本の草原2023」が発行される予定となっており、この中で田島ヶ原サクラソウ自生地が他の選定地域とともに紹介されます。

こうした資料を一助に、田島ヶ原サクラソウ自生地の価値や魅力を未来に伝えていくため、多方面へのPRや普及啓発にも取り組んでまいります。



▲選定地の草原をまとめた書籍
(写真は2023年1月発行のもの)

見沼通船堀閘門開閉実演を開催しました

国指定史跡「見沼通船堀」は、東西二本の見沼代用水とその間を流れる芝川とを結ぶ運河です。見沼代用水と芝川は水位の高低差があるため、それを克服するため木製の閘（閘門）により水位を調節する仕組みとなっています。

当日は、見沼通船堀の東縁一の閘と二の閘の間に船を浮かべ、一の閘を開け閉めし、実際に水位が変わっていく様子を再現しました。今年は初めての試みとして、地元にお住いの小学生の皆さんに操作指示などをしてもらい、好評を博しました。

また実演の途中には、市指定無形民俗文化財「見沼通船舟歌」が保存会の皆様により踊りと併せて披露されました。

8月23日（水）の午前、午後2回の実演に、合計約1,100人の方が見学に訪れました。



▲見沼通船舟歌の実演



▲ご活躍いただいた地元小学生の皆さん▶



TOPICS

●文化庁選定「歴史の道百選」見沼通船堀

見沼通船堀が「歴史の道百選」に選定されていることを皆様ご存じでしょうか。

「歴史の道百選」は平成8年（1996）に文化庁によって78件が選定され、その後の追加選定を合わせ、現在は114件となっています。

これは歴史的・文化的に重要な由緒を有する古道・交通関係遺跡を「歴史の道」として、その保存と活用を広く国民に呼び掛け、顕彰することを目的としているものです。

埼玉県内では他に、小川町・寄居町・毛呂山町の「鎌倉街道－上道」が選定されています。



▲歴史の道百選 石柱

見沼通船堀の詳細はこちら ▶



無形民俗文化財が各地で公開されました

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止や小規模開催を余儀なくされていた無形民俗文化財の公開ですが、今年度は市内各地で再開され賑わいをみせていました。

ここでは、保存団体の皆様の活動の様子を報告します。



神田の祭りばやし

日 時

令和5年7月8日

主な会場

八雲神社
(桜区)



宿の祭りばやし

日 時

令和5年7月8日

主な会場

大久保神社
(桜区)



秋葉ささら獅子舞

日 時

令和5年7月15日

主な会場

秋葉神社
(西区)



駒形の祭りばやし

日 時

令和5年7月16日

主な会場

須賀神社
(緑区)



鹿手袋の祭りばやし

日 時

令和5年7月16日

主な会場

鹿手袋会館
(南区)



砂の万灯

日 時

令和5年7月16日

主な会場

八雲神社
(見沼区)



浦和まつり

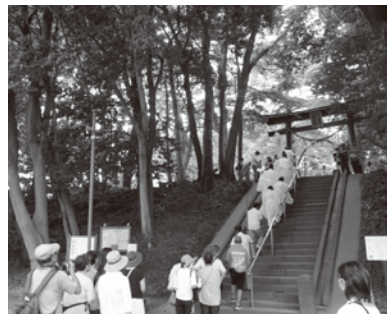
日 時

令和5年7月23日

主な会場

旧中山道(浦和区)

※写真は木遣流し



氷川女體神社の 名越祓え

日 時

令和5年7月31日

主な会場

氷川女體神社
(緑区)